

- 問1 2017年の統計において、鉄鉱石の輸入量のシェアが世界全体の68.2%に達し、2位の日本（8.0%）を大きく引き離して世界最大となっている国と、その背景として正しい説明はどれですか。（2021年 京都府公立入試 類似）
- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. オーストラリア — 自国に鉄鉱石が全く存在しないため、ブラジルなどから大量に輸入して工業製品を製造しているため。 | 2. 日本 — 高度経済成長期以降、現在も鉄鉱石の輸入量が中国を上回るペースで増え続けているため。 | 3. 中国 — 急速な工業化や都市開発にともない、鋼鉄の原料となる資源の需要が爆発的に増加したため。 | 4. 中国 — 資源の輸出量でも世界最大を目指しており、輸入した鉄鉱石をそのまま他国へ転売する中継貿易が盛んなため。 |
|---|---|--|--|
- 問2 ベトナムやタイなどの東南アジア諸国における、近年の産業の特色や変化について述べた文として、正しいものを選択してください。（2018年 岩手県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 政府が工業団地を整備して外国企業を誘致したことで、電気機械などの生産が盛んになった。 | 2. 天然ゴムや木材の輸出額が急増したため、工業化を中止して農林業中心の社会へ戻った。 | 3. 豊富な石油資源の輸出に頼るモノカルチャー経済から脱却するため、IT産業に特化した。 | 4. 内陸部にコールセンターを集積させることで、英語を公用語とする強みを活かしたIT都市を建設した。 |
|---|---|--|--|
- 問3 2012年の世界の穀物生産量は約25.66億トンでした。このうち、中国の穀物生産量は5億トンを超え、世界全体の約21%を占めています。この統計において、中国に次いで生産量が多い上位2か国（2位と3位）の組み合わせとして正しいものを、次のうちから選びなさい。（2016年 千葉県公立入試 類似）
- | | | | |
|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 1. インドとフランス | 2. アメリカとロシア | 3. ブラジルとカナダ | 4. アメリカとインド |
|-------------|-------------|-------------|-------------|
- 問4 南アジアに位置するインドでは、近年、ソフトウェア開発などの情報技術（IT）産業が目覚ましい発展を遂げています。この背景にある社会的・歴史的な要因について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2020年 山形県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 政府がカースト制度の身分ごとに従事できるIT分野を細かく指定したことで、効率的な分業体制が確立された。 | 2. ASEAN（東南アジア諸国連合）への加盟を機に、身分制度に関係なく自由に就職できる労働環境が周辺諸国から導入された。 | 3. IT産業は比較的新しい産業であるため、カースト制度などの伝統的な身分制度による職業選択の制約を直接受けにくかった。 | 4. 古くからの身分制度を完全に廃止し、全人口が平等に高度な情報教育を受けるための法整備が19世紀中に完了していた。 |
|--|---|--|--|
- 問5 1985年から2015年にかけての世界の自動車生産台数の推移をまとめた統計において、日本と韓国の生産状況を正しく説明しているものはどれですか。（2021年 三重県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|---|---|
| 1. アジア諸国の自動車生産は1980年代をピークに一斉に減少に転じており、日本も韓国も当時の半分以上の水準まで衰退した。 | 2. 日本は1980年代から生産台数が右肩下がりに減少し、2015年には韓国の生産台数が日本を逆転した。 | 3. 日本は年間約1000万台前後の高い水準を維持し続け、韓国は1980年代以降の急速な経済発展により約450万台まで生産台数を伸ばした。 | 4. 韓国は1980年代から生産台数が停滞しているが、日本は北米市場への輸出激増により2015年に3000万台を突破した。 |
|---|--|---|---|
- 問6 インドの産業について、2018年の工業出荷額の統計に基づいた特徴を述べた文として、正しいものはどれですか。周辺のパキスタンやスリランカでは繊維工業や食料品工業の割合が比較的高いことと比較して考えてください。（2024年 宮城県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. インドは周辺諸国に比べて工業出荷額が極めて大きく、石油製品や機械などの重化学工業が発展している。 | 2. インドは工業出荷額においてスリランカに劣るものの、機械工業の割合だけは周辺国より高い。 | 3. インドでは食料品工業が工業出荷額の過半数を占めており、重化学工業の育成は遅れている。 | 4. インドの工業出荷額は周辺諸国と同水準であるが、繊維工業の割合が最も高い点が特徴である。 |
|---|--|---|--|
- 問7 東南アジアにおける宗教の広がりについて、インドネシアやマレーシアなど、主に南側の島々（島嶼部）で最も多くの人々が信仰している宗教はどれか。（2018年 北海道公立入試 類似）
- | | | | |
|----------|-----------|-------|----------|
| 1. キリスト教 | 2. ヒンドゥー教 | 3. 仏教 | 4. イスラム教 |
|----------|-----------|-------|----------|
- 問8 特定の資源や農作物の輸出に依存する「モノカルチャー経済」が抱える課題について、経済的な背景から説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2025年 長野県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 国内の様々な産業がバランスよく成長するため、特定の品目の輸出を制限する必要が生じる。 | 2. 政府が全ての生産活動を管理するため、自由な企業活動が制限され経済が停滞する。 | 3. 国際価格の下落によって国家全体の収入が大きく変動し、経済が不安定になりやすい。 | 4. 先進国からの投資が特定の工業製品に集中するため、原料となる農産物が不足する。 |
|---|---|--|---|
- 問9 東南アジアに位置するベトナムにおいて、世界的な生産シェアが高く、同国の経済を支える重要な輸出品となっている農産物の組み合わせとして、正しいものはどれですか。（2026年 山形県公立入試 類似）
- | | | | |
|------------|-------------|---------|-----------|
| 1. 米とコーヒー豆 | 2. 小麦とコーヒー豆 | 3. 小麦と茶 | 4. 米と天然ゴム |
|------------|-------------|---------|-----------|
- 問10 東南アジアのタイなどで見られる仏教の宗教生活の特徴について、その背景や人々との関わりを説明した文章として最も適切なものを、次のうちから1つ選びなさい。（2026年 宮城県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 1日5回のお祈りやラマダーン（断食月）の義務を果たすことが、生活の中心となっている。 | 2. 身分制度と深く結びついており、特定の聖なる川での沐浴が重要な儀礼となっている。 | 3. 人々の日常的な信仰心に基づいて僧侶への喜捨が行われ、寺院が地域社会の信仰の中心となっている。 | 4. 毎週決まった曜日に教会へ集まり、一神教の教えに基づいて聖書を学ぶことが生活の中心となっている。 |
|---|--|---|--|
- 問11 世界全体の農産物生産量を示すデータにおいて、アジア州が約9割近くを占める「米」や「茶」のほかに、東南アジアなどでプランテーション（大規模農園）を中心に栽培され、世界生産の多くを占めている作物はどれですか。（2025年 秋田県公立入試 類似）
- | | | | |
|---------|--------|---------|---------|
| 1. オリーブ | 2. ブドウ | 3. 天然ゴム | 4. てんさい |
|---------|--------|---------|---------|
- 問12 ベトナムの輸出構造の変化について、2001年には輸出総額の約5.5%に過ぎなかったものの、2018年には40.4%に達し、第一位の輸出品目となった製品群として正しいものを、次のうちから選んでください。（2021年 兵庫県公立入試 類似）
- | | | | |
|--------|-------|--------|----------|
| 1. 果実類 | 2. 鉄鋼 | 3. 機械類 | 4. 衣類・履物 |
|--------|-------|--------|----------|
- 問13 インドで最も多くの人々に信仰されているヒンドゥー教に関連して、その文化的な特徴や生活習慣について述べた文として、正しいものはどれですか。（2020年 岡山県公立入試 類似）
- | | | | |
|---------------------------------|---------------------------------------|----------------------------------|-------------------------------|
| 1. 牛を神聖な動物として尊ぶため、牛肉を食べない習慣がある。 | 2. カースト制度による差別に反対して、インドから東南アジアへと広まった。 | 3. 偶像崇拝が厳しく禁止されており、寺院には神像が置かれない。 | 4. ラマダン（断食月）には、日中の飲食を断つ修行を行う。 |
|---------------------------------|---------------------------------------|----------------------------------|-------------------------------|

答え合わせ・解説

問1	答え 3 中国 ― 急速な工業化や都市開発にともない、鋼鉄の原料となる資源の需要が爆発的に増加したため。	21世紀に入り「世界の工場」と呼ばれるほど急速な成長を遂げた中国は、ビルや道路、橋などのインフラ整備や、自動車生産のために膨大な量の鉄鋼を必要としています。そのため、鉄鋼の原料となる鉄鉱石の輸入において世界全体の約7割という圧倒的なシェアを占めるに至りました。かつて輸入量で大きな割合を占めていた日本は、現在は中国に大きく引き離されています。
問2	答え 1 政府が工業団地を整備して外国企業を誘致したことで、電気機械などの生産が盛んになった。	東南アジア諸国では、かつては天然ゴムや木材といった一次産品の輸出が中心でしたが、近年は政府主導で工業団地が建設され、安価で良質な労働力を求めて日本などの外国企業が進出しました。その結果、電気機械をはじめとする工業製品の生産・輸出が飛躍的に伸び、産業構造の変化が起きています。
問3	答え 4 アメリカとインド	世界の穀物生産量において、中国は世界最大の生産国であり、シェアは21%に達します。これに続くのは、広大な農地で企業的穀物農業を行うアメリカ（14%）と、米の生産が盛んなインド（11%）です。中国、アメリカ、インドの3か国だけで世界の約半分近くの穀物を生産しているという構造を理解しておくことが重要です。
問4	答え 3 IT産業は比較的新しい産業であるため、カースト制度などの伝統的な身分制度による職業選択の制約を直接受けにくかった。	インドには「カースト制度」と呼ばれる伝統的な身分制度が根強く残っており、かつては家系や身分によって就ける職業が厳しく制限されていました。しかし、20世紀後半から急速に発展したIT産業は、既存の身分制度の枠組みに含まれない「新しい産業」であったため、低い身分とされる人々や中産階級の人々にとっても、実力次第で高収入を得られる新たなチャンスとして受け入れられました。これが優秀な人材の流入を促し、産業発展の大きな原動力となりました。
問5	答え 3 日本は年間約1000万台前後の高い水準を維持し続け、韓国は1980年代以降の急速な経済発展により約450万台まで生産台数を伸ばした。	日本の自動車産業は、高度経済成長期を経て1980年代には既に世界トップクラスの生産体制を確立しており、その後も年間約1000万台前後の高い水準を維持しています。対する韓国は、1980年代から「漢江の奇跡」と呼ばれる急速な経済発展を遂げ、重化学工業化の一環として自動車生産を大きく伸ばしました。統計上でも、韓国が低い位置から上昇し、400万台を超える規模に成長した様子が確認できます。
問6	答え 1 インドは周辺諸国に比べて工業出荷額が極めて大きく、石油製品や機械などの重化学工業が発展している。	南アジアにおけるインドの工業出荷額は約1兆2966億ドルに達し、パキスタンやスリランカを大きく引き離しています。その内訳も、石油製品、化学、金属、機械の合計が6割を超えるなど、重化学工業が中心となっている点が、軽工業中心の近隣諸国との決定的な違いです。スリランカの食料品出荷額がインドを上回ることとはなく、規模の面でもインドが南アジアの工業を牽引しています。
問7	答え 4 イスラム教	インドネシアやマレーシアでは、中世以降に海上交易を通じて伝わったイスラム教が広く信仰されています。特にインドネシアは世界で最もイスラム教徒の人口が多い国として知られています。なお、同じインドネシア国内でも観光地として有名なバリ島では、例外的にヒンドゥー教が信仰されています。
問8	答え 3 国際価格の下落によって国家全体の収入が大きく変動し、経済が不安定になりやすい。	輸出先での需要の変化や、国際市場における取引価格の変動が、その国全体の景気や財政に直接影響を及ぼします。例えば石油に依存する国では、原油価格が暴落すると国家予算の編成に支障をきたすなど、多角的な産業を持つ国に比べてリスクが非常に高いという側面があります。
問9	答え 1 米とコーヒー豆	ベトナムは熱帯・亜熱帯の気候や大規模な河川によるデルタ地帯を活かした農業が盛んです。米の生産量は2022年時点で世界第5位、コーヒー豆の生産量はブラジルに次ぐ世界第2位を誇っており、これらはベトナムを代表する輸出品目となっています。選択肢にある小麦は、ベトナムよりも乾燥した地域や冷涼な地域で主に栽培される作物です。
問10	答え 3 人々の日常的な信仰心に基づいて僧侶への喜捨が行われ、寺院が地域社会の信仰の中心となっている。	仏教が深く定着している地域では、人々が僧侶へ食料や日用品を贈る喜捨を行うことで徳を積むと考えられており、寺院や僧侶が人々の生活と深く関わっています。ほかの選択肢は、イスラム教、ヒンドゥー教、キリスト教の生活様式に関する説明となります。
問11	答え 3 天然ゴム	タイやインドネシア、ベトナムなどの東南アジア諸国では、熱帯の気候を活かして天然ゴムの生産が盛んに行われています。もともとは植民地時代に開かれたプランテーションで栽培が始まりましたが、現在でもアジア州は天然ゴムの世界生産において圧倒的なシェアを維持しています。オリーブやブドウは主に地中海性気候の地域で栽培される作物です。
問12	答え 3 機械類	ベトナムでは2000年代以降、急速な工業化が進みました。かつては衣類や農産物の輸出が中心でしたが、安価で豊富な労働力を活用するために外国企業の工場進出が相次いだ結果、スマートフォンなどの電子機器を含む機械類の輸出が急増し、現在では最大の輸出品目となっています。
問13	答え 1 牛を神聖な動物として尊ぶため、牛肉を食べない習慣がある。	ヒンドゥー教徒は牛を神聖視し、その肉を食べることを避けます。これに対し、イスラム教では豚を不浄なものとして食べることを禁じています。また、ヒンドゥー教は多くの神々を信仰する多神教であり、寺院には様々な神像が祀られています。カースト制度はヒンドゥー教の前身であるバラモン教の頃から続く伝統的な社会層であり、仏教はこの制度による差別に批判的な立場で成立しました。